



よしざわ とよこ
吉沢 豊子 教授

～ ウィメンズヘルス

・周産期看護学分野 ～

講義題目

ウィメンズヘルス看護学を立ち上げて

-Diversity,Equity and Inclusion のその先へ

【略 歴】

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1979年 3月 東北大学医療技術短期大学部看護学科卒業 | 1999年 4月 長野県看護大学教授 |
| 1980年 3月 東北大学医療技術短期大学部専攻科修了 | 2004年 4月 東北大学医学部教授 |
| 1980年 4月 東北大学医学部附属病院 | 東北大学医療技術短期大学部教授 (併任 ～2006年3月) |
| 1987年 3月 千葉大学看護学部卒業 | 2008年 4月 東北大学大学院医学系研究科教授 |
| 1987年 4月 医療法人社団保健会谷津保健病院 | 東北大学医学部保健学科長 (併任 ～2012年3月) |
| 1990年 3月 千葉大学大学院看護学研究科修士課程修了 | 2015年 4月 東北大学大学院医学系研究科 |
| 1990年 4月 埼玉県立衛生短期大学助手 | 副研究科長・医学部副学部長 (併任 ～2019年3月) |
| 1995年 4月 長野県看護大学助教授 | 2022年 3月 退職 |
| 1997年 3月 千葉大学大学院看護学研究科博士課程修了 | |

【研究業績等の紹介】

吉沢豊子教授は、1979年東北大学医療技術短期大学部看護学科4期生として卒業、1980年同専攻科助産学特別専攻1期生として修了し、東北大学医学部附属病院周産期母子センターに助産師として5年間勤務なさいました。その後、千葉大学看護学部を卒業し、1990年には千葉大学大学院看護学研究科修士課程を修了後、埼玉県立衛生短期大学助産学専攻科助手として、助産師養成教育に携わりました。この間に千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程にて、博士(看護学)の学位を取得し、長野県看護大学で助教授、教授を経て2004年東北大学医学部教授として就任されました。保健学科看護学専攻では看護師養成教育、助産師養成教育に携わりました。また、保健学専攻修士課程、博士課程の設置にも大きく貢献されました。修士、博士立ち上げ以降、修士課程修了者23名、博士課程修了・学位取得者13名、日本学術振興会特別研究員2名を輩出しました。

研究においては、女性の健康にかかわる研究から始め、そこからジェンダー学に関連する健康研究へとつなげられました。その中でも月経研究は、ホルモン変動に伴う卵胞期、月経期、黄体期における認知、情動および行動の変動に注目され、セルフモニタリング、自己コントロールをするこ

とによる女性の QOL の向上への研究を発展させました。年代別に月経量、月経血量を測定することから年代別に月経量、月経血量は異なることを見出されました。この研究は、月経血の排出期間と経時的排出量について、健康な女性を対象とした、日本で初めての研究となりました。また、経時的な月経痛を視覚化する試みから、いつ鎮痛剤を内服することが必要かなどの知見を見出されました。その後吉沢教授は更年期女性の健康に関する研究に着手され、オーストラリアと日本の女性の更年期症状の比較をオーストラリアの研究者と共同研究を行っています。さらにこの研究を基に、12 か国にもおよぶ国々の更年期女性の健康に関連するデータを集積したコンソーシアムに参加し、共同研究者として数々の論文を輩出するに至っています。ジェンダー学に関連する研究では、女性中心の研究から父親、男性研究へと研究を拡大させ、不妊男性の研究、男性のケア力に関する研究、ケアリング・マスキュリニティという新しい男性像の研究へとつながっています。

社会貢献としては、看護系大学が増加し看護学研究者の数も増えていく中で、日本学術振興会学術センター専門委員に選出され、看護学の科学研究費への位置づけに大きく貢献されました。また、大学評価・学位授与機構学位審查看護学専門委員として、看護の基礎教育を学士レベルにすることにも尽力をされました。